

徳島県周産期 災害対策マニュアル

改訂案



徳島県・徳島県周産期医療協議会

(令和2年3月改訂)

目 次

1. フェーズごとの行動指針

- フェーズごとの行動指針・骨格一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 災害時の周産期医療体制図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (1) 災害時小児周産期リエゾン~~(災害医療コーディネーター)~~・・・・・・・・・・ 5
- (2) 徳島県周産期災害対策ネットワーク本部（徳島大学病院）・・・・・・ 6
- (3) 産科を有する災害拠点病院~~・災害医療支援病院~~・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 産科診療所（分娩取扱有り）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (5) 産科診療所（分娩取扱無し・妊婦健診実施）・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (6) 助産師
 - ① 全般・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - ② うち開業助産師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (7) 保健師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (8) 妊産婦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

2. 関係機関電話番号簿

- (1) 産科を有する災害拠点病院・災害医療支援病院・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (2) 関係団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 県関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

3. 妊産婦・乳児に配慮した避難所運営指針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

4. 徳島県周産期「共通診療ノート」より

- 「防災ノート：赤ちゃん和妈妈を守るために」・・・・・・・・・・・・・・ 22

(参考) アクションカード

○徳島県周産期災害対策マニュアル(フェーズごとの行動指針)・骨格

フェーズ	フェーズ0	フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	フェーズⅣ
	平時からの対応	発災期対応	超急性期対応	急性期対応	亜急性期以降対応
	発災前	発災直後	発災～48時間	48時間～1週間	1週間～1か月程度
災害時小児周産期リエゾン <small>(災害医療コーディネーター(専門分野:小児周産期))</small> <small>※アクションカード参照</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○四国四県の産科基幹病院の産婦人科医の連絡体制の確立 ○四国四県の新生児科医の連絡体制の確立 ○新生児医療連絡会の全国災害連絡網の確立 ○県災害対策本部との連携強化 ○災害対策講習会への参加 ○通信手段の確保(LINE、衛星電話等) ○大規模災害対策情報システム入力訓練の統括 	<ul style="list-style-type: none"> ○県庁に災害対策部会が設置され、小児周産期リエゾン参集の要請があった場合 ⇒ 県庁に参集できる小児周産期リエゾンの決定 (原則として産婦人科医師1名、小児科医師1名とする) ○県庁へ移動してDMATと対面、現状確認 ○通信手段の確認(LINE、衛星電話等) ○県内基幹施設・診療所との連絡体制の確保 ○四国新生児医療研究会世話人間の連絡体制の確保 ○新生児医療連絡会の全国災害連絡網との連絡体制の確保 ○基幹施設・産科診療所の被災状況の確認 ○他府県を含めて移送が必要な患者の把握 ○指揮系統・担当者の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ○DMAT・救急隊との連携による患者移送の調整 ○DMATによるドクターヘリ・救急車配備の調整 ○県内基幹施設の医療スタッフの充足状況の確認 ○基幹施設・産科診療所・避難所の必要物資の確認 ○支援物資運搬の助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○DMAT・県災害対策本部との調整 ○基幹施設・産科診療所・避難所の状況確認 ○他府県からの応援医師の配置についての助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○DMAT撤退後の災害対策本部との調整の継続
周産期災害対策ネットワーク本部 【徳島大学病院】 <small>※アクションカード参照</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○周産期災害対策ネットワーク本部を大学病院内に置き、妊婦・褥婦・新生児の情報を一括して扱うことの周知徹底 ○県内基幹施設の緊急時連絡網の構築 ○県内基幹施設間の緊急連絡のシミュレーションの実施 ○発災時の周産期災害対策ネットワーク本部立ち上げの学内シミュレーションの実施 ○ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確保 (パソコン、ホワイトボード、ライティングシート、マーカー等) ○通信手段の確保(LINE、衛星電話等) ○大規模災害対策情報システム入力訓練への参加 ○周産期災害時情報共有ホームページを活用した妊産婦等へ災害時の備え等についての情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学病院の被害状況確認 ○大学病院周産母子センターの診療に必要な人員の確保 ○周産期災害対策ネットワーク本部の立ち上げ <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク本部運営に必要な人員の確保 ・ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確認 ・徳島大学病院内DMAT本部と近い場所に設置 ○小児周産期リエゾンとの情報共有 ○通信手段の確認(LINE、衛星電話等) ○時系列の情報収集と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ○小児周産期リエゾンとの情報共有の徹底 ○県内災害拠点病院・産科診療所の被災状況の把握 ○大規模災害対策情報システムの活用 ○EMIS、県災害時情報共有システムの活用 ○必要物資の把握およびリスト化、支援要請 ○支援物資の配布先の選定 ○妊婦への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・受診が必要な症状について ・分娩取り扱い、外来診療の可否について 	<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦への各診療所の被災状況の情報発信 ○診療所の被災状況に応じた妊産婦の振り分けの手配 ○他府県からの応援受け入れ対応 ○状況に応じてネットワーク本部を産婦人科医局へ移動 	
災害拠点病院 <small>災害医療支援病院</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○体制・システム <ul style="list-style-type: none"> ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成 ・防災訓練の実施 ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成 ・周産期のトリアージの訓練 ・病棟のアクションカード整備 ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成 ・通信手段の確保(LINE、衛星電話等) ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加 ・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載 ○施設・物品(診療所(分娩無)は除く) <ul style="list-style-type: none"> ・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保(10セット以上) ・分娩時に使用できる水の確保 ・備蓄(3日分):非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む) ・紙オムツ ・医薬品の整理 ○妊産婦への啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う <small>※詳細は「助産師フェーズ0」を参照</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全確認 <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、家族、職員の安全確保 ・入院している妊婦、褥婦、新生児の安全確保と避難誘導・搬送(必要であれば) ・被災状況の把握(建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える) ○情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・通信手段の確認(LINE、衛星電話等) ・施設内の災害対策本部、近隣の施設間、災害対策ネットワーク本部との情報交換 ○物品 <ul style="list-style-type: none"> ・使用できる分娩セット・帝王切開セットの確認 ・分娩時に使用できる水・ライフラインの確認 ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツの確認 ・医薬品の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○妊婦、褥婦、新生児への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導・搬送(必要であれば) ・外来診療 ・大規模災害対策情報システムへの入力 ・EMIS、県災害時情報共有システムの活用 ・妊婦への情報発信 ・DMATが到着すれば周産期関連の情報伝達 ・非常食・飲料水・粉ミルク(アレルギー用を含む)・紙オムツなど 必要物資の要求 ・必要な医薬品の要求 ○受け入れ体制の整備・受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦のトリアージブース設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送(必要であれば) ・外来診療 ・早期退院患者の相談対応 ・被災により帰宅できない妊産婦への退院調整 ・妊婦健診・1か月健診等の受診予約の把握・情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送(必要であれば) ・妊婦健診・1か月健診・分娩予約の再開 ○巡回支援 <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦・褥婦・新生児の巡回医療
診療所(分娩有)	【参考】 日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目 <small>※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要</small>		<ul style="list-style-type: none"> ・診療所が機能すれば、できる範囲内で正常分娩・管理を行う ・診療所が機能しなければ、入院患者の搬送、妊婦への情報提供を行う (可能であればオープンシステムも検討する) 		
診療所(分娩無)	<ul style="list-style-type: none"> ■緊急情報(災害発生後48時間以内に入力) <ul style="list-style-type: none"> ・分娩取り扱いの可否 ・帝王切開施行の可否 ・外来診療の可否 ・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否 ・施設の情報(無し、軽度、半壊、全壊) ■詳細情報 <ul style="list-style-type: none"> ・他病院からの婦人科患者受け入れ ・良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否 ・ライフライン(水道・ガス・電気) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「徳島県医師会救急災害対策マニュアル」(平成29年4月)に則って行動する 震度4未満 <ul style="list-style-type: none"> 平日日中 日常診療通り 夜間・休日 負傷者の規模に応じて対応 震度5弱 <ul style="list-style-type: none"> 平日日中 建物に損害がなければ日常診療可能な限り都市医師会長と連絡 震度5強以上:アクションカードの使用 <ul style="list-style-type: none"> 平日日中 平日診療を速やかに終了し、決められた応急救護所・救急災害拠点病院などに参集できるよう待機する 	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所が機能すれば自院で待機する ・可能であれば近隣分娩施設への応援、または応急救護所・救急災害拠点病院などに参集できるよう待機する 		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインが復旧していれば通常診療に戻る

災害時の周産期医療体制

★様々な情報ツール活用: 大規模災害対策情報システム、
災害時情報共有システム、EMIS等

【徳島県災害対策本部(県庁)】

◆他の様々な部局の災害対策本部班

保健福祉部

医療活動支援班

- ・総括災害医療Co.
- ・県DMAT調整本部 (統括DMAT)
- ・県DPAT調整本部 (統括DPAT)
- ・災害時小児周産期リエゾン(災害医療Co.)
- 避難者支援班、薬務班 ほか

4分野の総括Co.
(医療、保健衛生、
薬務、介護福祉)

【徳島大学病院】

大学病院災害対策本部

◇総合周産期母子医療センター

・徳島県周産期災害対策ネットワーク本部

【DMAT SCU本部】

情報共有

【災害拠点病院】

- ・現地医療対策支部機能 (圏域調整会議等)
保健福祉部 災害時Co.(圏域Co.)
- ・DMAT活動拠点本部(統括DMAT)
または病院支援指揮所(統括DMAT)
DMAT
- ・様々なチーム
医療救護班、DPAT、災害支援ナース
保健師チーム(市町村の母子保健含め)、
リハビリチーム、栄養チーム、介護チーム、
感染症対策支援チーム、口腔ケアチーム ほか

各病院災害対策本部

(分娩取扱い)

◇地域周産期母子医療センター

- <県立中央病院> <徳島市民病院>
- <徳島赤十字病院>

- <鳴門病院> <吉野川医療センター>
- <県立海部病院> <半田病院>
- <阿南医療センター>

- <県立三好病院> <海南病院>

【診療所(地域の産科医療機関)】

【医療機関・医療救護所】

【助産師会】

- 【避難所】 避難所運営リーダー、運営組織ほか
- 【福祉避難所】 市町村から指定、協定のもと
- 【一般住宅】【仮設住宅】

* 災害時の体制全てを網羅したものではありません。

1. フェーズごとの行動指針

(1) 災害時小児周産期リエゾン(災害医療コーディネーター(専門分野：小児周産期医療)) ※アクションカード別添参照

- 「災害時小児周産期リエゾン」とは
大規模災害発生時、県庁内の災害対策本部内で、~~災害医療コーディネーター~~のサ
~~ポート~~として、搬送や治療が必要な妊産婦・乳児の情報を集め、被災地内外の医療
機関等につなげる調整役。本県では、災害医療コーディネーター(専門分野：小児周
産期)として任命している。

平成28年度から厚生労働省による養成研修が始まっている。

【フェーズ0：発災前】

- ～ 平時からの対応 ～
- 四国四県の産科基幹病院の産婦人科医の連絡体制の確立
- 四国四県の新生児科医の連絡体制の確立
- 新生児医療連絡会の全国災害連絡網の確認
- 県災害対策本部との連携強化
- 災害対策講習会への参加
- 通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- 大規模災害対策情報システム入力訓練の統括

【フェーズⅠ：発災直後】

- ～ 発災期対応 ～
- 県庁に災害対策部会が設置され、小児周産期リエゾン参集の
要請があった場合 ⇒ 県庁に参集できる小児周産期リエゾンの決定
(原則として産婦人科医師1名、小児科医師1名とする)
- 県庁へ移動してDMATと対面、現状確認
- 通信手段の確認（LINE、衛星電話等）
- 県内基幹施設・診療所との連絡体制の確保
- 四国新生児医療研究会世話人間の連絡体制の確保
- 新生児医療連絡会の全国災害連絡網との連絡体制の確保
- 基幹施設・産科診療所の被災状況の確認
- 他府県を含めて移送が必要な患者の把握
- 指揮系統・担当者の明確化

【フェーズⅡ：発災～48時間】

- ～ 超急性期対応 ～
- DMAT・救急隊との連携による患者移送の調整
- DMATによるドクターヘリ・救急車配備の調整
- 県内基幹施設の医療スタッフの充足状況の確認
- 基幹施設・産科診療所・避難所の必要物資の確認
- 支援物資運搬の助言

【フェーズⅢ：48時間～1週間】

- ～ 急性期対応 ～
- DMAT・県災害対策本部との調整
- 基幹施設・産科診療所・避難所の状況確認
- 他府県からの応援医師の配置についての助言

【フェーズⅣ：1週間～1か月程度】

- ～ 亜急性期以降対応 ～
- DMAT撤退後の災害対策本部との調整の継続

(2) 徳島県周産期災害対策ネットワーク本部（徳島大学病院）

※アクションカード別添参照

- 「徳島県周産期災害対策ネットワーク本部」とは
大規模災害時、県内唯一の総合周産期母子医療センターである徳島大学病院内のDMAT本部と近い場所に設置する。
県災害対策本部内の災害時小児周産期リエゾンと連携し、県内の周産期医療施設の状況等について情報を集約するとともに、関係医療機関、行政、妊産婦等に対して情報発信を行う。

【フェーズⅠ：発災前】

～ 平時からの対応 ～

- 周産期災害対策ネットワーク本部を大学病院内に置き、妊婦・褥婦・新生児の情報を一括して扱うことの周知徹底
- 県内基幹施設の緊急時連絡網の構築
- 県内基幹施設間の緊急連絡のシミュレーションの実施
- 発災時の周産期災害対策ネットワーク本部立ち上げの学内シミュレーションの実施
- ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確保
(パソコン、ホワイトボード、ライティングシート、マーカー等)
- 通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- 大規模災害対策情報システム入力訓練への参加
- 周産期災害時情報共有ホームページを活用した妊産婦等へ災害時の備え等についての情報発信

【フェーズⅡ：発災直後】

～ 発災期対応 ～

- 大学病院の被害状況確認
- 大学病院周産母子センターの診療に必要な人員の確保
- 周産期災害対策ネットワーク本部の立ち上げ
 - ・ ネットワーク本部運営に必要な人員の確保
 - ・ ネットワーク本部立ち上げに必要な物品の確認
 - ・ 徳島大学病院内DMAT本部と近い場所に設置
- 小児周産期リエゾンとの情報共有
- 通信手段の確認（LINE、衛星電話等）
- 時系列の情報収集と記録

【フェーズⅢ：発災～48時間】

～ 超急性期対応 ～

- 小児周産期リエゾンとの情報共有の徹底
- 県内災害拠点病院・産科診療所の被災状況の把握
- 大規模災害対策情報システムの活用
- E M I S、県災害時情報共有システムの活用
- 必要物資の把握およびリスト化、支援要請
- 支援物資の配布先の選定
- 妊婦への情報発信
 - ・ 受診が必要な症状について
 - ・ 分娩取り扱い、外来診療の可否について

(3) 産科を有する災害拠点病院・災害医療支援病院

● 「災害拠点病院・災害医療支援病院」とは

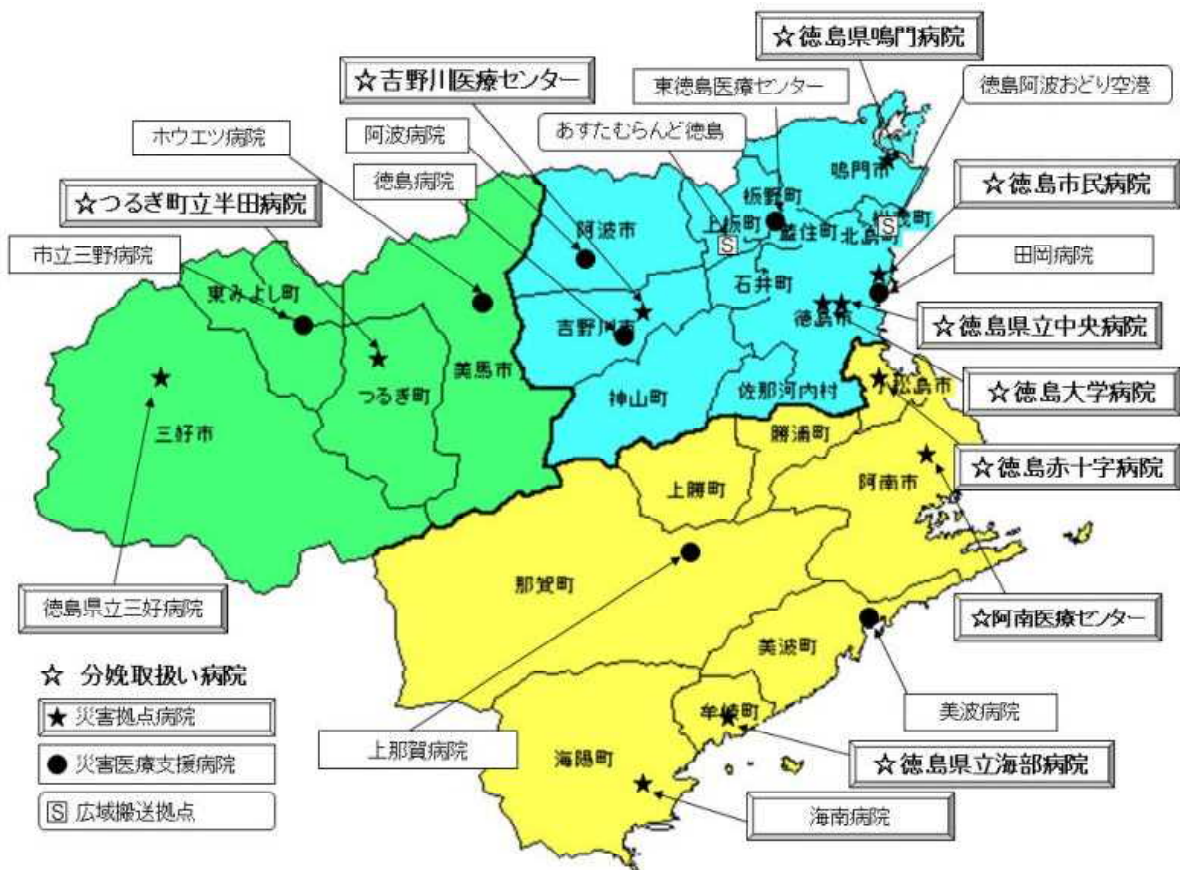
災害拠点病院：大規模災害発生時、重篤な救急患者に対する救命医療を行う。

高度の診療機能を有し、重症患者の受入機能、広域搬送への対応機能等を持つ。

災害医療支援病院：全ての患者が災害拠点病院に集中するのを防ぐため、被災地内のトリアージ拠点として被災者の受け入れを行い、重篤な救急患者は災害拠点病院へ転送する。また、圏域内の災害拠点病院被災時のバックアップ機能も持つ。

☆ **令和2年3月**現在、分娩を取り扱っている病院は全て災害拠点病院又は災害医療支援病院に指定されている。（注：県立三好病院は分娩取扱い休止中）

県内の災害拠点病院・災害医療支援病院の状況（**令和2年3月**現在）



【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

○ 体制・システム

- ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成
- ・防災訓練の実施
- ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成
- ・周産期のトリアージの訓練
- ・病棟のアクションカード整備
- ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成
- ・通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加

(4) 産科診療所（分娩取扱有り）

徳島県内 分娩取扱診療所（令和2年3月現在）	
徳島市	梶産婦人科、蕙愛レディースクリニック、 祖川産婦人科クリニック、メイプルクリニック高橋産婦人科
鳴門市	レディースクリニック兼松産婦人科
石井町	遠藤産婦人科、なかたに産婦人科
藍住町	中山産婦人科

【フェーズ0：発災前】

～ 平時からの対応 ～

○ 体制・システム

- ・施設内・施設間・リエゾンとの連絡網作成
- ・防災訓練の実施
- ・情報共有・新生児・母体搬送などのマニュアル作成
- ・周産期のトリアージの訓練
- ・病棟のアクションカード整備
- ・分娩予定妊婦の連絡先名簿作成
- ・通信手段の確保（LINE、衛星電話等）
- ・大規模災害対策情報システム入力訓練への参加
- ・妊婦健診結果の共通診療ノートへの記載

○ 施設・物品（診療所（分娩無）は除く）

- ・分娩セット・帝王切開セットの予備の確保（10セット以上）
- ・分娩時に使用できる水の確保
- ・備蓄（3日分）：非常食・飲料水・粉ミルク（アレルギー用を含む）
- ・紙オムツ
- ・医薬品の整理

○ 妊産婦への啓発

- ・妊婦健診、母親学級・パパママ学級、産後入院中に防災教育を行う
- ※詳細は「助産師フェーズ0」を参照

【参考】

日本産婦人科学会「大規模災害対策情報システム」への災害時情報入力項目

※情報入力・閲覧には、ID、パスワードが必要

■緊急情報（災害発生後48時間以内に入力）

- ・分娩取り扱いの可否
- ・帝王切開施行の可否
- ・外来診療の可否
- ・母体搬送・新生児搬送の受け入れの可否
- ・施設の情報（無し、軽度、半壊、全壊）

■詳細情報

- ・他病院からの婦人科患者受け入れ
 良性腫瘍・悪性腫瘍手術の受け入れ可否
- ・ライフライン（水道・ガス・電気）
- ・ヘリポート（ヘリポートの有無、活用可否、代替他の有無）

【フェーズI：発災直後】

～ 発災期対応 ～

○ 安全確認

- ・自分自身、家族、職員の安全確保
- ・入院している妊婦、褥婦、新生児の安全確保と避難誘導・搬送（必要であれば）
- ・被災状況の把握（建物の倒壊、火災、津波などによる災害に備える）

2. 関係機関電話番号簿

(1) 産科を有する災害拠点病院・災害医療支援病院

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
徳島大学病院	088-631-3111(代) 088-633-9331(産科)	ワイドスターⅡ	080-2991-1409 090-4669-7886	
徳島県立中央病院	088-631-7151	ワイドスターⅡ	080-2990-0178 080-2990-0179	
徳島市民病院	088-622-5121	インマルサットBGAN ワイドスターⅡ	(870)7-7258-0109 080-2981-4005	
徳島赤十字病院	0885-32-2555	ワイドスターⅡ	080-2974-9450 080-2974-9451 080-1999-6557	
徳島県鳴門病院	088-683-0011	インマルサットBGAN	(870)7-7258-0422	
吉野川医療センター	0883-26-2222	インマルサットBGAN イリジウム	(870)7-7225-6525 (870)7-7225-6526 8816-2341-0990 8816-2341-0991	
徳島県立海部病院	0884-72-1166	ワイドスターⅡ	080-2990-0182 080-2990-0183	
つるぎ町立半田病院	0883-64-3145	ワイドスターⅡ	080-8632-8280	
徳島県立三好病院	0883-72-1131	インマルサットBGAN ワイドスターⅡ	(870)7-7228-4477 080-2990-0180 080-2990-0181	分娩取扱無し
<u>阿南医療センター</u>	<u>0884-28-7777</u>	ワイドスターⅡ	<u>080-1999-5200</u> 080-8634-1980 080-8634-1981	

(2) 関係団体

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
徳島県医師会	088-622-0264	ワイドスターⅡ	080-2850-2151 080-2850-2152 080-2850-2153	
徳島県看護協会	088-631-5544			
徳島県助産師会	090-4504-9362			橋本会長

(3) 県関係

機関名	通常回線	衛星携帯電話		備考
		機種	番号	
健康づくり課	088-621-2220			
医療政策課	088-621-2732	インマルサットBGAN	(870)7-7228-6250	
		ワイドスターⅡ	090-2242-2761	
保健福祉政策課	088-621-2185	インマルサットBGAN	(870)7-7228-6763	
徳島保健所	088-652-5153	インマルサットBGAN	(870)7-7228-1234	
吉野川保健所	0883-36-9018	インマルサットBGAN	(870)7-7228-4936	
阿南保健所	0884-28-9867	ワイドスターⅡ	080-2852-5875	
美波保健所	0884-74-7341	インマルサットBGAN	(870)7-7228-7765	
美馬保健所	0883-52-1017	ワイドスターⅡ	090-5710-6148	
三好保健所	0883-72-1122	インマルサットBGAN	(870)7-7228-6882	

3. 妊産婦・乳児に配慮した避難所運営指針

【問題点】

一般避難所では妊産婦・乳児が過ごしにくく、安全・安心が守られにくい。

- ・妊婦であることを申し出にくい
- ・授乳がしづらい
- ・乳児の泣き声で周囲に気兼ねする
- ・車中泊などが増える
- ・妊娠高血圧症候群や血栓症などの増加
- ・急変に対応しづらい

- 1) 避難所運営組織のポイント
 - ・女性と男性、多様な立場の代表が責任者・リーダーとなる
 - ・相談窓口、支援物資の女性担当者（ニーズ把握、物資配布）
- 2) 妊産婦・乳児の避難者情報把握
 - ・避難者の受付の際に妊産婦・乳児の把握をする
- 3) 避難所のレイアウト・スペースにおける配慮
 - ・授乳・おむつ替えスペース、可能であれば乳児のいる家族向けスペース
 - ・女性用の更衣室、女性専用の物干し場などの配慮
 - ・トイレは、女性に安全な場所に設置する
女性用：男性用＝3：1を目安 洋式トイレを配備
- 4) 妊産婦・乳児に必要な備蓄物品
 - ・生理用品、おむつ（新生児、S、Mサイズ）、おしりふき
 - ・粉ミルク 又は乳児用液体ミルク、哺乳瓶、消毒用品、ミルク用の水、カセットコンロなど
- 5) 性犯罪被害の防止
 - ・トイレ周辺の安全確保（照明の確保など）、防犯ブザーの配布、巡回警備

○妊産婦・乳児救護所設置の提言

- ・一般避難所では妊産婦・乳児への十分な対応が困難である可能性がある。
- ・切迫早産傾向がある、分娩予定日が近いなど急変の可能性がある妊産婦や、出産後に病院施設から早期に退院を余儀なくされた母子など、入院が必要ではないが、個別の対応が求められる場合は医療機関への連携がしやすい「妊産婦・乳児救護所」への入所が望ましい。

- 1) 対象者 妊婦、乳児及びその母親
- 2) スタッフ体制 妊婦・乳児のケアについては、助産師、看護師、医師等
- 3) 備蓄物品 粉ミルク（アレルギー対応含む）、乳児用液体ミルク、簡易分娩セットなど
- 4) 検討事項 対象者以外の方（父親や兄弟などの家族）が施設内に入ることを認めるか、開設期間、開設場所など

■県内の妊産婦・乳児救護所の指定状況（令和2年3月現在）

開設者	指定場所	備考
鳴門市	徳島県鳴門病院附属看護専門学校 （鳴門市撫養町斎田）	鳴門市と徳島県鳴門病院との協定に基づき、大規模災害時に開設

4. 徳島県周産期「共通診療ノート」より 「防災ノート：赤ちゃん和妈妈を守るために」

防災ノート～赤ちゃん和妈妈を守るために～

災害時に命を守る

災害時に赤ちゃん和妈妈を守るためには、一人一人が自ら取り組む『自助』が重要です。そのために、災害に備え、家の安全対策をし、災害時の身の安全の守り方を知っておくことが大切です。また、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む『共助』が大切です。災害が起こったときのために、家族との連絡方法を確認しておくことや、日ごろから近所の人と交流をしておくことも大切です。

支援を求めましょう

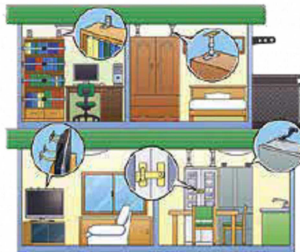
妊娠中や産後のママ、乳幼児は、災害時に特別な支援が必要な『要配慮者』となります。しかし、支援が必要な人の存在が分からなければ助けられません。避難所では「妊婦である」と責任(担当)者に申し出て支援を求めてください。マタニティマークも有効です。



防災ノートの使い方

書き込みやチェックをして、災害への備えをしましょう。
母子健康手帳と共通診療ノート(防災ノートを含む)を常に携帯しましょう。

家の中の安全対策：自宅を安全な場所にすることが大切です。



「政府広報オンライン」より

☆家の中の安全対策は
子どもの事故防止にも
つながります。

☆手の届くところに
置きましょう
・懐中電灯
・スリッパ
・ホイッスル

1

赤ちゃん和妈妈のための非常用物品

避難所には、個々の乳幼児や妊産婦に合わせた備蓄品は整っていません。使い慣れたものを、すぐ持ち出せるようにしておきましょう。普段から非常用物品を持ち歩く、車に載せておくなどすると、外出時に被災しても役立ちます。

一次避難用品：両手が空くようリュックに 貴重品 <input type="checkbox"/> 現金(公衆電話のために小銭を含める) <input type="checkbox"/> 預金通帳 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証 非常食・飲料水 <input type="checkbox"/> 食料品 <input type="checkbox"/> 飲料水 医療品 <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> 絆創膏 生活用品 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ホイッスル <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> ビニール袋(大・中・小) <input type="checkbox"/> ラップ <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> タオル その他 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 充電器 <input type="checkbox"/> 身体を保温できるもの (おくるみ、カイロ、保温シートなど)	妊産婦の方 <input type="checkbox"/> 母子健康手帳 <input type="checkbox"/> 共通診療ノート <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 清浄綿 <input type="checkbox"/> 分娩準備品 <input type="checkbox"/> 新生児用品 乳幼児がいる方 <input type="checkbox"/> 粉ミルク <input type="checkbox"/> ミルク用飲料水 <input type="checkbox"/> 哺乳瓶 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> おやつ <input type="checkbox"/> スプーン <input type="checkbox"/> 抱っこ紐 <input type="checkbox"/> 大判スカーフ <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> おしりふき <input type="checkbox"/> おもちゃ <input type="checkbox"/> 子ども用の薬 <input type="checkbox"/> 乳幼児医療受給者証
非常備蓄品 水や食料は1人3日以上、できれば1週間分を備蓄しましょう。 衣類、下着、簡易トイレ、カセットコンロなど	



「政府広報オンライン」より

2

災害時の家族との連絡方法・集合場所を決めておこう

- ✦ 災害用伝言ダイヤル(171)
「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行います。
- ✦ 災害用伝言板
大規模な災害時は、携帯会社のHPトップに「災害用伝言板サービス」が表示され、安否情報の登録や確認ができるようになります。
- ✦ すだちくんメール
徳島県の災害時の安否確認サービスです。
平常時に利用できる様々なサービスもあります。



すだちくんメールQRコード⇒

災害発生時の対応

- ✦ 洪水や土砂崩れ
自然災害に対しては、自らの判断で避難行動をとることが原則です。
市町村から発令される避難情報も確認して、早めに避難をしましょう。

避難情報	とるべき行動
避難準備・高齢者等避難開始	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始。その他の人は、避難の準備。
避難勧告	速やかに避難場所へ避難。 ※外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難。
避難指示(緊急)	まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難。 ※外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難。

(注)必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

- ✦ 地震
地震発生後：ガラスや家具から離れ、テーブルの下などで安全を確認しましょう。揺れがおさまったら、家族の安全を確認し、被害状況を確認しましょう。正しい情報を集め、避難が必要かどうか判断します。
- ✦ 避難時の注意
避難するときは、火災を防ぐためガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とします。妊婦は転びやすいので注意しましょう。非常用物品を持って避難します。



3

災害発生後 妊婦さんに知っておいて欲しいこと

- ✦ 妊婦が注意すべき症状
 - ・冷え：妊娠中は冷えるとお腹が張りやすくなります。できるだけ温かくしましょう。
 - ・深部静脈血栓症(エコノミークラス症候群)：長時間座った姿勢などでいると、血行不良になります。妊婦は血圧が低いため、ときどき身体を動かし、水分を十分とって予防しましょう。また、トイレは我慢しないようにしましょう。
 - ・妊娠高血圧症候群：災害時の食事は塩分が高いこともあり、塩分をとり過ぎると血圧が高くなる可能性があります。目がチカチカする、耳鳴り、頭痛、吐き気などの症状があれば、受診できるように手配してもらってください。
 - ・切迫早産：お腹が頻りに張る、下腹部痛、出血、破水などの症状は切迫早産の兆候です。受診できるように手配してもらってください。
- ✦ お産が始まった兆候
出産が予定日よりも早まる可能性があります。規則的な痛みを伴うお腹の張り、粘りのある出血、破水があるときは、直ちに助けを求め、お産が可能な病院等で診てもらいましょう。
- ✦ もし自宅や避難所など医療機関以外で産まれそうになったら
 - ・お産を手伝ってくれる人(医療関係者、出産経験のある女性など)を呼びます。
 - ・陣痛が始まったら、焦らずに横になれる場所を見つけて、慌てずにゆっくりと呼吸しましょう。落ち着くほど安全にお産を終えることができます。
 - ・赤ちゃんが生まれたら素早く顔を拭き、呼吸を確認しましょう。呼吸をしていない時は、赤ちゃんの足や背中をさすって刺激をしましょう。
 - ・乾いたタオルで赤ちゃんの身体を拭きます。赤ちゃんをお母さんの胸に抱いて保温しましょう。
 - ・胎盤が出てきたらビニール袋に入れておきます。へその緒の処置は、清潔にする必要があるのでもそのままにして、救急隊など医療関係者に依頼しましょう。
 - ・お母さんは出産後、ナプキン(紙おむつ)をあてて、2時間程度安静にしましょう。



4

産後のケア

産後は、不眠や食欲低下、疲れから気分が落ち込んだり、感情の起伏が激しくなったりすることがあります。災害時は、さらにこれらの症状が起こりやすくなります。

- ・我慢せずに、話せる人に気持ちを聞いてもらいましょう。
- ・家族にでも言えないことがあるかもしれませんが、かかりつけ医や助産師、保健師に相談をしましょう。
- ・からだを適度に動かすこと、眠ること、食べることが大事にしましょう。



乳幼児のケア

✦ 母乳について

・精神的なショックで母乳量が少なくなることがありますが、飲ませ続けることで、また出るようになります。

・ミルクを補充する場合でも、まず最初に母乳を与えてください。

✦ ミルクについて

- ・カセットコンロがあれば、ミルク用のお湯が準備できます。
- ・哺乳瓶がない場合や、消毒ができない時は、清潔な紙コップで与えましょう。赤ちゃんをタテ抱きにして、下唇にコップをあて、上唇がミルクに触れるようになります。ミルクを注ぎ込んではいけません。
- ・硬水は消化不良を起こしやすいので、軟水を用意します。

✦ 離乳食について

・ベビーフードがない場合、袋にご飯を入れ、お湯（水）と一緒に煮込んであげるとよいでしょう。濃い味付けのものは避けてください。

✦ 子どもの反応とそのケア

- ・乳児では、発熱や下痢、哺乳力の低下、夜泣きなどが起こることがあります。抱っこするなどスキンシップをとりながら様子を見ます。
- ・幼児では、赤ちゃん返りや尿床、怒りやすい、泣きやすい、食欲の低下、汗波ごっこ、震災ごっこ等、心配な反応が現れることがあります。子どもを一人にせず、声掛けやスキンシップを保ちながら、遊びを取り入れ安心感、安全感を高めていきます。



緊急時の問い合わせ先：かかりつけ医に連絡が取れない時

✦ 災害拠点病院のうち分娩を取扱う病院

地域	施設名	住所	電話
東部	徳島大学病院	徳島市蔵本町 2-50-1	088-631-3111
	徳島県立中央病院	徳島市蔵本町 1-10-3	088-631-7151
	徳島市民病院	徳島市北常三島町 2-34	088-622-5121
	徳島県清門病院	清門市撫養町黒崎字小谷 32	088-683-0011
	吉野川医療センター	吉野川市清見町知徳島字西知徳島120	0883-26-2222
南部	徳島赤十字病院	小松島市小松島町字井利ノ口103	0885-32-2555
	阿南医療センター	阿南市宝田町川原 6-1	0884-28-7777
	徳島県立海部病院	牟岐町大字中村字杉谷 266	0884-72-1166
西部	つるぎ町立半田病院	つるぎ町半田字中蔵 234-1	0883-64-3145



5

6

あなたの地域の災害時の被害予測を知ろう

✦ 南海トラフ巨大地震被害想定では

震度： 液状化： 有・無 津波浸水： m

✦ 中央構造線活断層（直下型地震）

震度： 液状化： 有・無

あなたの地域の避難所等を事前に確認しておきましょう

✦ 避難場所：

✦ 避難所：

✦ 医療救護所（被災状況等により必要に応じて設置されます）：

相談の窓口

✦ 市町村の母子保健担当：（ ☎ ）

✦ 徳島県助産師会担当：

① 「助産師による電話相談」

（土曜と日曜日 10時～16時 ☎ 090-8695-9470）

② 「子育てほっと相談室」産前・産後の母親相談事業（徳島県委託事業）
（月曜から金曜日 13時～16時 ☎ 090-3186-8358）

正しい情報を集めましょう

✦ 徳島県防災・危機管理情報サイト「安心とくしま」

HPアドレス <https://anshin.pref.tokushima.jp/>

✦ 医療とくしま（徳島県の医療機関・情報のデータベース）

HPアドレス <https://anshin.pref.tokushima.jp/med/>

✦ 徳島県助産師会 HP アドレス <http://tokushima-midwife.com/>

✦ Facebook（フェイスブック）：とくしま子育て防災ネットワーク @tokushimabousai

✦ Twitter（ツイッター）：徳島県防災・危機管理情報 @saiga01

✦ 徳島大学病院「妊婦さんと赤ちゃんのための災害に備えて」

HPアドレス
<http://www.tokudai-sanfujinka.jp/disaster/>

ホームページ QRコード⇒



7

周産期災害対策ネットワーク本部長

担当	活動場所	活動内容
診療科長	ネットワーク災害対策本部 (大学病院災害対策本部に近接する場所)	災害対策本部の立ち上げ 組織構築とその周知・役割付与

1. 大規模災害が発生した際、以下の事項を確認してください

記入者 () 災害場所 ()
 災害の種類 () 発災時刻 ()

2. 徳島大学病院災害対策本部に近接する場所に必要物品を搬入し、なるべく速やかに周産期災害対策ネットワーク本部を立ち上げてください

3. 本部を構成するのに必要な人員を確保し、院内外の職員を必要に応じて招集してください

必要物品	保管場所
ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、ライティングシート ビブス、Windowsパソコン、iPad、連絡用メモ用紙、文房具一式	東病棟三階 当直室前の倉庫

4. 下記における役割を任命し、それぞれの立ち上げを指示してください

本部長補佐	災害時小児周産期リエゾン
クロノロジー担当	助産師あるいは事務職員
情報収集・連絡担当	医師あるいは看護師

5. アクションカードを各担当に渡し、災害対応を始めてください

本部長補佐	県庁に入った小児科周産期リエゾンとの情報共有 通信手段の確認(ネット回線の状況、衛星電話など)
クロノロジー担当	ライティングシート、ホワイトボードマーカーの準備 クロノロジーの作成
情報収集・連絡担当	徳島大学病院災害対策本部との情報共有 病院ライフライン設備の機能確認 入院患者の状態の確認

周産期災害対策ネットワーク本部長

担当	活動場所	活動内容
診療科長	ネットワーク災害対策本部 (大学病院災害対策本部に近接する場所)	災害対策本部の立ち上げ 組織構築とその周知・役割付与

6. 本部長の心得

- (1) 基本的に本部から離れないようにしてください
- (2) 直接連絡を受けずに、各部門・連絡係を通すようにしてください
- (3) 細かい仕事は各部門の担当に任せてください
- (4) 情報の混乱が予想されるので、全体の統括に務めて下さい
- (5) クロノロジーをもとに各部門担当者と一定時間毎に情報を整理して下さい

周産期災害対策ネットワーク本部長

診療科長が不在の場合、本部長補佐が兼任

担当	活動場所	活動内容
災害対策 リエゾン	ネットワーク災害対策本部 (大学病院災害対策本部に近接する場所)	災害対策本部の立ち上げ 組織構築とその周知・役割付与

- 大規模災害が発生した際、以下の事項を確認してください
記入者 () 災害場所 ()
災害の種類 () 発災時刻 ()
- 徳島大学病院災害対策本部に近接する場所に必要物品を搬入し、なるべく速やかに周産期災害対策ネットワーク本部を立ち上げてください
- 本部を構成するのに必要な人員を確保し、院内外の職員を必要に応じて招集してください

必要物品	保管場所
ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、ライティングシート ビブス、Windowsパソコン、iPad、連絡用メモ用紙、文房具一式	東病棟三階 当直室前の倉庫

- 下記における役割を任命し、それぞれの立ち上げを指示してください

本部長補佐	災害時小児周産期リエゾンが本部長と兼任
クロノロジー担当	医師、看護師、助産師、事務職員
情報収集・連絡担当	医師、看護師、助産師

- アクションカードを各担当に渡し、災害対応を始めてください

本部長補佐	県庁に入った小児科周産期リエゾンとの情報共有 通信手段の確認(ネット回線の状況、衛星電話など)
クロノロジー担当	ライティングシート、ホワイトボードマーカーの準備 クロノロジーの作成
情報収集・連絡担当	徳島大学病院災害対策本部との情報共有 病院ライフライン設備の機能確認 入院患者の状態の確認

周産期災害対策ネットワーク本部長

診療科長が不在の場合、本部長補佐が兼任

担当	活動場所	活動内容
災害対策 リエゾン	ネットワーク災害対策本部 (大学病院災害対策本部に近接する場所)	災害対策本部の立ち上げ 組織構築とその周知・役割付与

6. 本部長の心得

- (1) 基本的に本部から離れないようにしてください
- (2) 直接連絡を受けずに、各部門・連絡係を通すようにしてください
- (3) 細かい仕事は各部門の担当に任せてください
- (4) 情報の混乱が予想されるので、全体の統括に務めて下さい
- (5) クロノロジーをもとに各部門担当者と一定時間毎に情報を整理して下さい
- (6) 可及的速やかに診療科長との連絡をとってください